

基礎物理学

責任者・コーディネーター	物理学科 佐藤 英一 教授		
担当講座・学科(分野)	物理学科		
担当教員	佐藤 英一 教授、小松 真 講師		
対象学年	第1学年	期間	後期
区分	講義	時間数	21時間
単位数	1単位		

■ 学習方針（講義概要等）

物理学は医歯薬系の学部においては重要な科目である。それは物理学の基礎的知識や論理的思考法が、将来、専門分野において基礎実験や創造的研究を行ううえで必要となるからである。この基礎物理学では大学における基礎的な物理学全般にわたって分かり易く講義する。単なる公式暗記と数値の代入ではなく、論理的な物理の思考法が身につくように指導する。また学習内容の中に生体系への応用例を数多く採用することにより、物理学に対する興味を深めさせる。

（佐藤 英一/7回）

ニュートンの運動の法則を中心とした力学、連続の式やベルヌーイの定理などの流体力学、そして熱力学第一と第二の法則を講義する。

（小松 真/7回）

クラペイロン・クラウジウスの法則を中心とした熱力学、電磁気学、初等量子力学、そして放射線物理学などについて講義する。

■ 一般目標（GIO）

力学、流体力学、熱力学、量子力学、電磁気学、そして波動にわたって、簡単な微分や積分などの手法を用いて理解する。また基本となる法則などを説明し、原理図を描写する。

■ 到達目標（SBO）

1. 運動の法則を理解し、力、質量、加速度などを微分方程式を用いて表すことができる。
2. 位置エネルギー、運動エネルギー、熱エネルギーなどについて例をあげて説明できる。
3. 光、音、電磁波などの波の性質を理解し、反射、屈折、干渉などの特性を説明できる。
4. レーザーの性質を概説し、代表的な応用例を列挙できる。
5. 熱力学に関する代表的な法則と諸量について数式を記述し、説明できる。
6. 光電効果やコンプトン効果などについて説明できる。
7. ボーアの水素原子モデルや波動方程式について解説できる。

8. 電荷と電流、電圧、電力、オームの法則などを説明できる。
9. 電場と磁場の相互関係などを概説できる。
10. 核磁気共鳴と MRI の原理などを説明できる。
11. 電離放射線の種類を列挙し、それらの物質との相互作用について概説できる。

■ 講義日程

【(矢) 東 1-A 講義室】

月日	曜日	時限	講座(学科)	担当教員	講義内容
9/12	月	1	物理学科	佐藤教授	ニュートンの運動の法則
9/14	水	3	物理学科	佐藤教授	力学的エネルギー保存則
9/28	水	3	物理学科	佐藤教授	流体力学
10/19	水	3	物理学科	佐藤教授	波動
10/27	木	4	物理学科	佐藤教授	レーザーの発生と応用
11/2	水	3	物理学科	佐藤教授	熱力学第一法則
11/10	木	4	物理学科	佐藤教授	熱力学第二法則
11/16	水	3	物理学科	小松講師	相変化に伴う熱の移動
11/30	水	3	物理学科	小松講師	光子
12/7	水	3	物理学科	小松講師	電子と原子
12/14	水	3	物理学科	小松講師	電荷と電流
1/4	水	3	物理学科	小松講師	電場と磁場
1/11	水	3	物理学科	小松講師	原子と素粒子
1/25	水	3	物理学科	小松講師	放射線

■ 教科書・参考書

教：教科書 参：参考書 推：推薦図書

	書籍名	著者名	発行所	発行年
教	医歯系の物理学	赤野 松太郎 他	東京教学社	1987
参	物理学	小出 昭一郎 他	東京教学社	1992
参	新編物理学	藤城 敏幸	東京教学社	1989

■ 成績評価方法

1. 佐藤：50点満点の試験を行い、出席状況も考慮して採点する。
2. 小松：期末試験（20点）とレポート（25点）の合計点数に、出席状況など（計5点）を加味して評価する。
3. 総合評価：佐藤と小松の採点結果の合計点とする。

■ 備考

※以下の講義日程は注意すること。

1. 9月12日（月）・1時限目
2. 10月27日（木）・4時限目
3. 11月10日（木）・4時限目

■ 授業に使用する機器・器具と使用目的

使用区分	機器・器具の名称	台数	使用目的
講義	ノート型 PC	2	講義資料の提示
講義	書画カメラ・DVD プレーヤーセット (エルモ、東芝、他)	1	講義資料の提示